

CASBEE あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	きら市民交流センター(仮称)支所棟	階数	地上2階
建設地	愛知県西尾市吉良町萩原桐杭17番	構造	S造
用途地域	準住居地域、22条区域	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年
建物用途	事務所集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2017年4月19日
敷地面積	2,997 m ²	作成者	高柳 翔太
建築面積	1,428 m ²	確認日	2017年4月24日
延床面積	2,326 m ²	確認者	早久仕 英治

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★
BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 79%
③上記+②以外の 79%
④上記+ 79%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q: 環境品質 **Qのスコア = 3.2**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR: 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.1**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>11.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引
きら市民交流センター(仮称)支所棟

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AIC

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気環境								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								
4.3 運用管理								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1.2 心理性・快適性								
1.3 維持管理								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
2.2 部品・部材の耐用年数								
2.4 信頼性								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	比較的低層の建物とし、植栽を配置することで敷地周辺と調和		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	大きな庇や地域に開かれたテラスを設置		5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.83		4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				4.0	0.30	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		BEIm=0.73		4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.8	0.63	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.21	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-		1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上げを容易に分解できる		4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮				3.8	0.33	-	-	3.8
①		ライフサイクルCO2概算値:79%		2.5	0.33	-	-	2.5
2 地域環境への配慮				3.0	0.25	-	-	
2.1 大気汚染防止				2.0	0.50	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	駐輪場と駐車場を適切量設置		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.3	0.33	-	-	2.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音	独自			3.0	0.33	-	-	
2 振動	独自			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制				1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	0.30	-	-	
3 日照障害の抑制				2.3	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制				2.0	0.70	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.30	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

暮らし市民交流センター(仮称)支所棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.8
LR3-1 地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用			3.1
Q2-2 耐震性・信頼性	3.5	0.09	
Q2-3 対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2 非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1 生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:11.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
Q3-2 4) 地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2) 地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 きら市民交流センター(仮称)

計画上の配慮事項	
総合	地方公共団体の支所という用途を考慮し、地域に開かれた建物とするため、バルコニーやラウンジを配置するとともにエントランスまわりを一面カーテンウォールとするとともに天井高さを高めに設定し、解放感のある建物とした。
Q1 室内環境	1階事務室、会議室、休憩室、ホールや2階屋内運動場部分の天井には吸音材を使用し、室内環境に配慮した。
Q2 サービス性能	1階事務室天井高さ3.4m、2階屋内運動場部分天井高さ3.8mとすることで、不特定多数の利用者に対して解放感のある空間とした。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯性に配慮し、敷地周囲にはメッシュフェンスを配置した。
LR1 エネルギー	BPI _m =0.83とし、建物の熱負荷を軽減させた。
LR2 資源・マテリアル	躯体と外壁仕上げを容易に分解できる鉄骨造とした。
LR3 敷地外環境	駐車場を広めに設定することで、全面道路の渋滞や路上駐車が発生しないよう配慮した。
その他	建物のFLを設計GL+1100とし、津波発生時にも避難施設として機能するよう配慮した。また、建物内にも災害時会議室を配置し、防災拠点として機能するよう配慮した。